

日本語の複合動詞における後項動詞とロシア語の 動詞接頭辞との対応関係について

—— 語彙的複合動詞を構成する「～たつ」「～たてる」の場合 ——

アブラギモヴィチ・ユーリヤ

京都大学大学院 人間・環境学研究科 共生人間学専攻

〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町

要旨 本稿では、日本語の語彙的複合動詞を構成する後項動詞のうち「～たつ」「～たてる」に焦点を当て、これらを用いて構成された複合動詞をロシア語に訳す際に使用されうる接頭辞付加動詞について統計的調査を行う。この調査結果から、「～たつ」「～たてる」に意味的に相当するロシア語の主な動詞接頭辞を特定し、日本語学における後項動詞の意味分類を参考にすることによって、どのような動詞接頭辞がどのような意味タイプの訳語に使用されるのかを明らかにする。

はじめに

日本語の複合動詞の先行研究には、「動詞+動詞」型の複合動詞を「統語的複合動詞」と「語彙的複合動詞」の2種類に区別する学説が存在する。外国語への翻訳という観点から見ると、統語的複合動詞に関して言えば、前項動詞の語彙特性が後項動詞による影響を受けにくい¹⁾ため、外国語への翻訳における訳出パターンを固定化することが容易である²⁾。これに対し、語彙的複合動詞では前項動詞と後項動詞の意味的な関係性が複雑であるため、訳出パターンを確立することが困難であり、日本語を第二言語として学習する者にとって語彙的複合動詞は習得が困難なものひとつとなっている³⁾。

こうした問題があることから、本稿筆者は、ロシア語ネイティブが語彙的複合動詞を学習する際に教育的効果が高められる方法を考案することを念頭に置きながら、語彙的複合動詞のロシア語訳に関して、特に後項動詞とロシア語の動詞接頭辞との意味的な対応関係について、後項動詞「～こむ」「～でる」「～だす」を対象としてこれまで考察を行ってきた⁴⁾。本稿では、姫野(1999)による複合動詞「～たつ」「～たてる」の意味タイプ

に着目し、どのような動詞接頭辞がどのような意味タイプで用いられるのかを明らかにすることで、訳語として汎用性の高い動詞接頭辞を特定することを主眼としている。なお、複合動詞の収集にあたっては国立国語研究所によるオンライン検索システム『複合動詞レキシコン』を使用した⁵⁾。

1. 「～たつ」「～たてる」複合動詞に関する先行研究

1.1. 語彙的複合動詞を構成する後項動詞「～たつ」「～たてる」

姫野(1999)によれば、「～たつ」および「～たてる」を前項動詞に持つ複合動詞は全て語彙的複合動詞に分類されるという⁶⁾。ここで、まず語彙的複合動詞について、この分類の提唱者である影山(1993)の研究を拠り所にして説明を行う。

影山(1999)は動詞+動詞型の複合動詞を「統語的複合動詞」と「語彙的複合動詞」の2種類に大別している。「統語的複合動詞」とは意味的な制限を持たない複合動詞のことである。例えば、単純動詞「飲む」に「～始める」「～続ける」「～終わる」が結合することによって形成される複合動詞「飲み始める」「飲み続ける」「飲み終わる」では、前項動詞が表す「飲む」という動作の意味

は単純動詞「飲む」の場合といささかも変わらず、後項動詞によって「始動」「完了」「継続」といった動作の段階ないし局面が付与されているにすぎない⁷⁾。

すでに述べたように、こうした特徴を持つ統語的複合動詞をロシア語に訳す場合、訳出パターンを固定化することは容易である。例えば、「始動」を表す複合動詞であれば動詞接頭辞 PO-, RAZ-, VZ-, ZA-などを持つ接頭辞付加動詞(例. *zastučat'*「打ち始める」, *pobežat'*「駆け出す」)⁸⁾ や、合成述語(例. *načat' rabotat'*「働き始める」)が訳語の候補として挙げられる。また「完了」の場合も同様に特定の接頭辞付加動詞や合成述語によって訳出することができる(*zakončit' pisat'*「書き終わる」, *otpet'*「歌い尽くす」)⁹⁾。

これに対し「語彙的複合動詞」では、2つの単純動詞が結合して複合動詞となる際に、前項動詞の意味が後項動詞の性質によって限定されてしまう。例えば、複合動詞「飲み歩く」「飲み明かす」「飲み交わす」「飲み倒す」「飲み潰れる」では、それぞれの後項動詞との結合によって前項動詞「飲む」の対象が酒類に限定されている¹⁰⁾。

語彙的複合動詞に関して言えば、本稿筆者が複合動詞の例を収集する際に使用した、『複合動詞レキシコン』に収録されている複合動詞は全て語彙的複合動詞であり、『複合動詞レキシコン』には影山の理論が全面的に反映されている¹¹⁾。

従って、本稿では、複合動詞の分類に関して影山と同じ視点に立ち、なおかつ後項動詞の意味用法に関して詳細な説明を与えている姫野(1999)を、後項動詞「～たつ」「～たてる」に関する先行研究として使用する。

なお、本稿第1章の冒頭でも触れたが、「～たつ」「～たてる」複合動詞は全て語彙的複合動詞である。本稿で後項動詞「～たつ」「～たてる」を取り上げるに至った最大の理由は、語彙的複合動詞しか形成しないという「～たつ」「～たてる」の一種独特な性質にある。

1.2. 後項動詞「～たつ」が持つ意味

姫野(1999)は、後項動詞「～たつ」の意味を「直立(出現)」「出発」「感情の発露・高揚」「生

起・昂進」「その他」の5つに分類している¹²⁾。

まず、「直立(出現)」の意味の場合、「そびえたつ」や「降りたつ」といった例で見られるように、本動詞「立つ」の本義が残され、「立つ」という動作の様相を表す機能を前項動詞が担っている。「出発」を表す「飛びたつ」や「舞いたつ」などの例でも本義が残されており、ここでも前項動詞によって後項動詞の様相が示されている。「感情の発露・高揚」の意味では、「いきりたつ」や「浮きたつ」のように、感情の動きを表す語を前項動詞に持つことで、人間の感情や気分が高まることが強調されるのに対し、「かおりたつ」や「煮えたつ」のような自然現象の発生を表すものは「生起・昂進」として分類されている。そして、これら4つの意味に該当しない「思いたつ」「引きたつ」「成りたつ」を「その他」として分類し、3つの複合動詞に対して個別的な説明を与えている。「思いたつ」では、何かをしようとする思いが偶然起こることが表現されており、この偶然・無意志性という点で類似表現の「思いつく」との違いを明らかにしている。また、「引きたつ」については類似表現の「目立つ」と比較することで、肯定的な評価を伴うものであると説明されている。そして3つ目の「成りたつ」における後項動詞「～たつ」には「確立」の意味が含まれている。

- 1) 「直立(出現)」: 「突きたつ」「そびえたつ」「並びたつ」など
- 2) 「出発」: 「飛びたつ」「舞いたつ」「群がりたつ」など
- 3) 「感情の発露・高揚」: 「焦りたつ」「いきりたつ」「色めきたつ」など
- 4) 「生起・昂進」: 「煮えたつ」「においたつ」「沸きたつ」など
- 5) その他(一語化されていて分析しにくいもの): 「思いたつ」「引きたつ」「成りたつ」

なお、これらの意味のうち、後項動詞「～たつ」がなくとも文意が通じるものは「生起・昂進」であると姫野(1999)は指摘している¹³⁾。また、前項動詞が表す動作が「～たつ」によって強調されていると考えれば「感情の発露・高揚」においても後項動詞なしで文意が通じると思われる。

1.3. 後項動詞「～たてる」が持つ意味

後項動詞「～たてる」の意味については「直立（確立）」「顕彰・拔擢」「構築・達成」「強調・旺盛」の4つが挙げられている¹⁴⁾。

「～たつ」の場合と同様、「直立（確立）」の意味で使用される「～たてる」には本動詞「立てる」の本義が保たれており、「突きたてる」「並びたてる」などの複合動詞がこれに該当する。また、「引きたてる」「とりたてる」のような登用の意味で使用される複合動詞は「顕彰・拔擢」に分類され、「組みたてる」「積みたてる」のような、何らかの動作の繰り返しによって目的を達成する複合動詞は「構築・達成」に分類されている。最後の「強調・旺盛」は動作がさかに行われる様子を表し、「煮たてる」「塗りたてる」「書きたてる」など数多くの複合動詞が属する。

- 1) 「直立（確立）」: 「突きたてる」「打ちたてる」「蹴りたてる」など
- 2) 「顕彰・拔擢」: 「引きたてる」「盛りたてる」「とりたてる」など
- 3) 「構築・達成」: 「組みたてる」「積みたてる」「仕たてる」など
- 4) 「強調・旺盛」: 「扇ぎたてる」「煮たてる」「塗りたてる」など

なお、これらの意味のうち、「直立（確立）」では前項動詞がなくとも文意が通じ、「強調・旺盛」では後項動詞がなくとも文意が通じると姫野(1999)は指摘している¹⁵⁾。

2. 後項動詞「～たつ」「～たてる」に対応するロシア語の動詞接頭辞

本章では、後項動詞「～たつ」「～たてる」を持つ語彙的複合動詞と意味的に対応するロシア語の表現を調査し、どのようなロシア語訳が用いられるのかについて統計的分析を行う。そして訳語の中で接頭辞付加動詞に着目し、「～たつ」「～たてる」によって構成された語彙的複合動詞の訳語に接頭辞付加動詞が使用される場合、どのような接頭辞がどれほどの割合で用いられるのかを具体的な数値で示すことを目的とする。

ここでまず、ロシア語の接頭辞付加動詞と動詞

接頭辞について簡単に説明を行う。接頭辞付加動詞 (ptistavočnye glagoly あるいは prefiksál'nye glagoly¹⁶⁾) とは基幹動詞¹⁷⁾に接頭辞を付したものである。例えば、動詞 vpisat' (不定詞)「書き込む、書き入れる」は基幹動詞 pisat'「書く」と動詞接頭辞 v-から形成されている。この例を見て分かるように、接頭辞と結合することによって元の基幹動詞に補足的な意味が与えられ、特定化された意味を持つ新たな動詞が生まれる。筆者が複数のロシア語辞書に当たって調べた限りでは、ロシア語における動詞接頭辞の数は27種類に及ぶ¹⁸⁾。接頭辞と基幹動詞が結合するパターンは決まっており、結合可能な接頭辞の数は動詞によって異なる。上記の動詞 pisat' を例に挙げると、この動詞に付される接頭辞は19種類に限られ、また別の動詞 pit'「飲む」と dumat'「考える」には10種類の接頭辞が、žit'「生きる」と stojat'「立つ」には9種類の接頭辞が結合する¹⁹⁾。また、動詞接頭辞の中には napsat' の na-のように、固有の語彙的ないし物質的意味を持たず、単に完了体であることを示すマーカーとして使用されるものがある²⁰⁾。つまり、この種の接頭辞を持つ完了体動詞は、派生元となった不完了体の基幹動詞と同一の動作を表す。こうした動詞接頭辞は空の接頭辞 (pustoj prefiks) または純アスペクト的接頭辞 (čistovidovaja pristavka) と呼ばれる²¹⁾。また、完了体となった接頭辞付加動詞へさらに接尾辞を付すことによって二次的な不完了体の形が形成される場合もある²²⁾。

本稿で分析の対象とした複合動詞のデータは、『複合動詞レキシコン』に収録されているもの、およびウェブ上に公開されている、『複合動詞レキシコン』の元データに収録されているものの一部を使用した。分析対象とした語彙的複合動詞の数は「～たつ」が38語、「～たてる」が51語である。

ロシア語の訳を考える際、各複合動詞の意味及び使用例については『複合動詞レキシコン』内における記述、国語辞典²³⁾および日本語コーパス²⁴⁾によって確認を行った。

前述のように、今回の調査は接頭辞付加動詞単体で訳出することができる訳語の候補を対象とし

ているため、接頭辞付加動詞が使用されていても、さらに動詞ないし副詞の併用が必要な訳語は調査の対象から除いた。また、ひとつの複合動詞に対して複数の接頭辞付加動詞が訳語として想定される場合はその全てを訳語の候補とした。

そして、この訳出作業の結果、34語の「～たつ」複合動詞に対して71語の接頭辞付加動詞が、また48語の「～たてる」複合動詞に対して176語の接頭辞付加動詞が訳語として使用できることが判明した²⁵⁾。

そして、この調査結果に基づいて各動詞接頭辞が使用される割合を百分率で表した。百分率の算出方法は、ある動詞接頭辞を共有する接頭辞付加動詞の数を接頭辞付加動詞全体の数で割り、それに100をかけたものである。なお、割合の数値については、小数点以下第2位で四捨五入を行い、第1位までを表示している。

複合動詞の訳語に使用された各動詞接頭辞の数および割合を表で表すと〔図表1〕のようになる。〔図表1〕における列Aは、訳語として登場した接頭辞付加動詞の数を、列Bは接頭辞付加動詞全体に対する当該接頭辞の割合を示している。なお、動詞接頭辞は基本形のみを表示し、異形態は省略した²⁶⁾。また、列Bの数値をグラフで表すと〔図表2〕のようになる。数値は全て%による表示である。〔図表1〕および〔図表2〕では、複合動詞の訳語に一度も用いられることがなかった接頭辞 (DE-, DIS-, NAD-, NEDO-, NIZ-, OBEZ-, PRED-) は除いた。

どのような接頭辞付加動詞が複合動詞の訳語と

して使用されるのかを示すために、実際の例の一部を5%以上の数値を示したものに限り以下に引用する。

・後項動詞が「～たつ」の場合

RAZ-: 「ざわめきたつ」 rasšumet'sja, 「たけりたつ」 razbuševat'sja; ZA-: 「思いたつ」 zadumyvav', 「燃えたつ」 zapylat'; VZ-: 「飛びたつ」 vzletat', 「うねりたつ」 vzdymat'sja; VOZ-: 「いきりたつ」 vozmušcat'sja, 「そびえたつ」 vozvyšat'sja; O-: 「奮いたつ」 obodrit'sja, 「浮きたつ」 oživit'sja; S-: 「成りたつ」 sostojat', 「煮えたつ」 svarit'sja; VY-: 「生いたつ」 vyrastat', 「並びたつ」 vystrivat'sja; POD-: 「気負いたつ」 podnimat'sja (na bor'bu), 「飛びたつ」 podnimat'sja (v vozduch).

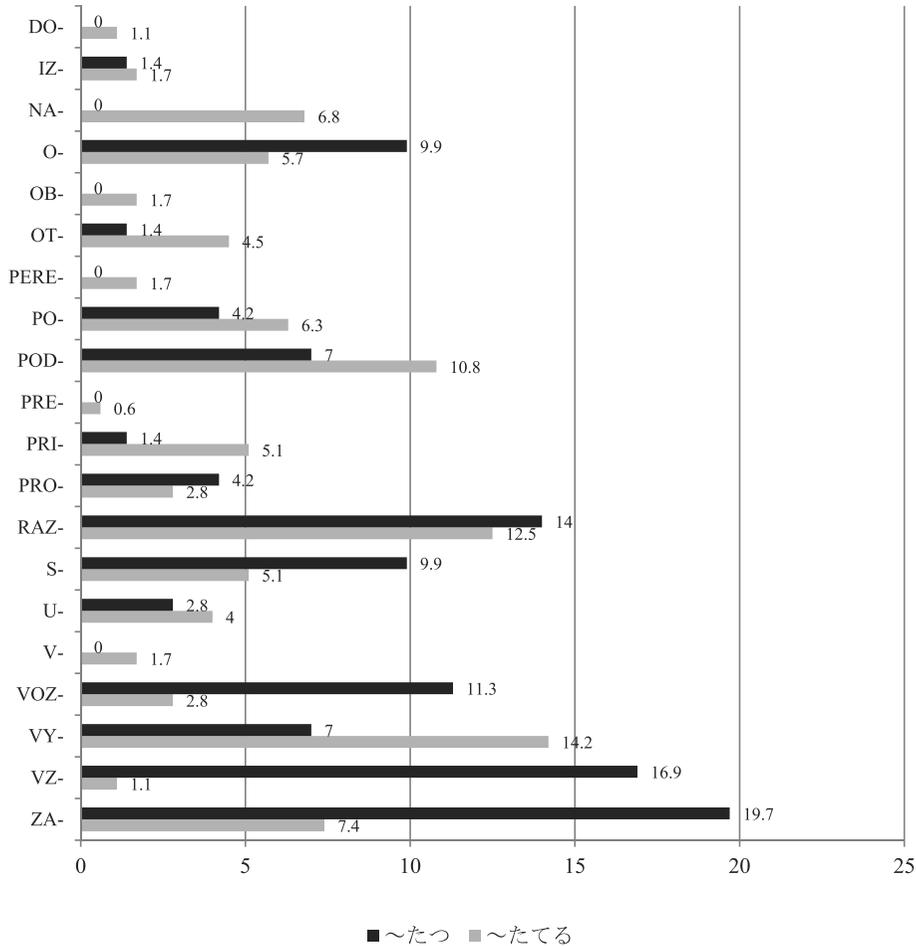
・後項動詞が「～たてる」の場合

VY-: 「洗いたてる」 vystirat', 「追いたてる」 vygonjat'; POD-: 「駆りたてる」 podgonjat', 「仕たてる」 podgotovljat'; RAZ-: 「飾りたてる」 razukrašivat', 「誉めたてる」 raschvalivat'; ZA-: 「言いたてる」 zjavljat', 「埋めたてる」 zasypat'; NA- 「積みたてる」 nakaplivat', 「塗りたてる」 nakrasit'sja; PO-: 「追いたてる」 pogonjat', 「取りたてる」 povyšat'; O-: 「呼びたてる」 oklikat', 「とがめたてる」 osuždat'; PRI-: 「呼びたてる」 priglašat', 「引きたてる」 privodit'; S-: 「煮たてる」 svarit', 「組みたてる」 sobirat'.

後項動詞「～たつ」によって構成された語彙的

〔図表1〕 訳語に使用された動詞接頭辞

ロシア語 動詞接頭辞	～たつ		～たてる		ロシア語 動詞接頭辞	～たつ		～たてる	
	A	B	A	B		A	B	A	B
DO-	0	0	2	1.1	PRI	1	1.4	9	5.1
IZ-	1	1.4	3	1.7	PRO	3	4.2	5	2.8
NA-	0	0	12	6.8	RAZ-	10	14	22	12.5
O-	7	9.9	10	5.7	S-	7	9.9	9	5.1
OB-	0	0	3	1.7	U-	2	2.8	7	4
OT-	1	1.4	8	4.5	V-	0	0	3	1.7
PERE-	0	0	3	1.7	VOZ-	8	11.3	5	2.8
PO-	3	4.2	11	6.3	VY-	5	7	25	14.2
POD-	5	7	19	10.8	VZ-	12	16.9	2	1.1
PRE-	0	0	1	0.6	ZA-	14	19.7	13	7.4



[図表2] 接頭辞付加動詞全体における各接頭辞の割合

複合動詞の訳語のうち、最も高い頻度で用いられていた動詞接頭辞はZA-である。これに次いで、VZ-, RAZ-, VOZ-が16%から11%の数値を示し、その他の動詞接頭辞は10%を下回る割合でしか使用されていないことが分かる。

後項動詞「～たてる」の場合を見ると、VY-が最も高い14%台の使用率を示しており、RAZ-とPOD-がその後に続いている。その他の動詞接頭辞の使用率はいずれも10%を下回っている。

また、OB-, PERE-, V-, DO-, PRE-は「～たてる」の訳語において軒並み1%台の数値を示している一方で、「～たつ」の訳語では一度も用いられていないことも分かる。

この調査結果から、後項動詞「～たつ」「～たてる」双方の訳語において比較的高い割合で使用

される動詞接頭辞はRAZ-であることが明らかになった。

3. 後項動詞「～たつ」「～たてる」の各意味タイプと動詞接頭辞との対応関係

本稿第3章では、第2章の調査結果により明らかになった、10%以上の割合で訳語に使用される動詞接頭辞POD-, RAZ-, VOZ-, VY-, VZ-, ZA-に限定し、これらの動詞接頭辞が、姫野(1999)の考案による各意味タイプにどのように対応しているのかを明らかにする。多義的な複合動詞に関しては、同じ動詞でもその意味によって、異なる意味タイプに分類できる場合があるため、多義的な複合動詞が持つ複数の意味がどの意味タ

イブに該当するののかという問題についても、国語辞典による説明を参考にしながら考察する。なお、国語辞典は『デジタル大辞泉』（小学館）を使用した。

3.1. 複合動詞「～たつ」の意味タイプと訳語の例

国語辞典における意味説明をもとに、複合動詞「～たつ」の意味を姫野（1999）に従って意味タイプに分類し、訳語として使用が可能と考えられる接頭辞付加動詞を挙げる。なお、10%以上の数値を示した RAZ-, VOZ-, VZ-, ZA-を訳語に持つ複合動詞「～たつ」は22例である。

「ささくれだつ」：① ささくれた状態になる。② 感情がすさんでとげとげしくなる；①は「直立（出現）」、②は「感情の発露・高揚」に該当。①の訳語には“rasščepljat'sja”が使用可能。

「飛びたつ」：① 空中に飛び上がる。飛んでそこを去る。② 喜びや期待で心が落ち着かなくなる；①は「出発」、②は「感情の発露・高揚」に該当。①の訳語には“vzletat', vskakivat'”の2語が使用可能。

「浮きたつ」：① 心楽しく、うきうきして落ち着かない状態になる。② 気持ちがうわずる。そわそわする。③ 周りのものから区別されてよく目立つ。引き立つ。④ 雲や霧がわき起こる。わき上がる。⑤ 乱れて騒がしくなる。不安に動揺する；①②⑤は「感情の発露・高揚」、③は「その他」の「引きたつ」と同じタイプ、④は「生起・昂進」に該当すると考えられる。②の意味に“zasuetit'sja, zaegozit'”が使用可能。

「沸きたつ」：① 盛んに沸く。煮え立つ。② 興奮して騒然とした状態になる。③ 感情が高ぶる；①は「生起・昂進」、②③は「感情の発露・高揚」に該当する。“vskipat'”は①②③全ての意味の訳語に使用可能。この他、①の意味の訳語にはさらに“zakipat', zaburlit'”が、②には“vozbuždat'sja”が、③には“zakipat'”が使用できる。

「燃えたつ」：① 盛んに燃える。激しく燃え上がる。また、赤い色などが炎のように輝くとえに言う。② 感情が激しく高ぶる；①は「生起・昂進」、②は「感情の発露・高揚」に該当。①②双

方の意味に“zapylat', vosplamenjat'sja, vspychnut'”が使用可能。つまり、日本語の場合と同様、ロシア語でも物理的現象と感情表現を同じ動詞で表すことができる。なお、これら3つの接頭辞付加動詞のうち、“zapylat'”は「赤い色などが炎のように輝く」という比喩表現にも使用できる。

「煮えたつ」：① 煮えて沸き立つ。にたつ。② 怒りや憎しみでいっぱいになる；①は「生起・昂進」、②は「感情の発露・高揚」に該当。①②双方の意味に“zakipet', vskipet'”が使用可能。また、「煮えたつ」の①と同じ意味を持つ単義的な「煮たつ」の場合も同じく“zakipet', vskipet'”の双方を訳語として使用することができる。

以上が多義的複合動詞「～たつ」の例である。なお、単義的な複合動詞「～たつ」については例の一部を以下に記す：「ざわめきたつ」（感情の発露・高揚）“rasšumet'sja, razvolnovat'sja”，「たけりたつ」（感情の発露・高揚）“razbuševat'sja, rassvirepet'”，「そびえたつ」（直立（出現））“vozvyšat'sja”，「思いたつ」（その他）“zadumyvat', vzdumyvat'”。

3.2. 複合動詞「～たてる」の意味タイプと訳語の例

複合動詞「～たつ」の場合と同様、国語辞典における意味説明を参考にしながら、複合動詞「～たてる」の意味を姫野（1999）に従って意味タイプに分類し、訳語として使用が可能と考えられる接頭辞付加動詞を挙げる。ただし、本稿では現代日本語で使用される意味だけを扱い、すでに廃れてしまった意味は除外した。なお、10%以上の数値を示した POD-, RAZ-, VY-を訳語に持つ複合動詞「～たてる」は36例である。

「仕たてる」：① 布地を裁って衣服に縫い上げる。② 教え込んで一人前にする。仕込む。養成する。③ そうでないものを、それらしく作り上げる。④ ある出来事を芝居などの作品に作り上げる。⑤ ある目的のために特別に乗り物などを用意する²⁷⁾；①から⑤は全て「構築・達成」に該当。②には“podgotavlivat'”が使用可能。

「見たてる」：① 見て選び定める。選定する。② 病気を診断する。また、鑑定する。③ 別のもの

になぞらえる。仮にそのものと見なす²⁸⁾；①②③は「顕彰・拔擢」に該当。①の意味の訳語に“vybirat’”が使用可能。

「引きたてる」：①無理に連れて行く。ひったてる。②元気が出るようにする。はげます。③ひいきにして力添えする。特に目をかける。④一段とよく見えるようにする。よさが際立つようにする。⑤戸などを引いて閉じる²⁹⁾；①は「強調・旺盛」、②③④は「顕彰・拔擢」、⑤は「直立（確立）」に該当すると考えられる。③には“vydvigat’”が、②には“podnimat’ (duch)”，④には“podč ě rkiivat’”がそれぞれ使用できる。

「取りたてる」：①多くの中から特別に取り上げる。②大勢の中から特に選び出して用いる。拔擢する。引きたてる。③催促し徴収する。強制的に取る³⁰⁾；①②は「顕彰・拔擢」、③「強調・旺盛」に該当。①②の意味には共に“vydvigat’”が訳語として使用できる。

「押し立てる」：①勢いよく立てる。高く揚げる。②先に立てる。③推挙する³¹⁾；①②は「直立（確立）」、③は「顕彰・拔擢」に該当。①の意味には“podnimat’”が、③の意味には“podderživat’”の訳語が使用可能であり、さらに③には“vydvigat’”も使用できる。

「掻き立てる」：①いきおいよくかき回してまぜる。②刺激を与えて感情や行動を起こすように促す。そそる。③灯心を上に引き上げて明るくする。また、薪や炭火などをつついて火の勢いを強くする。④オーバーなどの襟を立てる。⑤弦楽器を弾く；①②③⑤は「強調・旺盛」、④は「直立（確立）」に該当すると考えられる。①には“razmešivat’”が、②には“vyzyvat’”が、③には“podkručivat’ (fitil’)”と“razžigat’”が、そして④には“podnimat’ (vorotnik)”が訳語として使用可能である。

「言いたてる」：①強く主張する。言い張る。②一つ一つ数え上げて言う。列挙して述べる。③評判を立てる。言いはやす。④口実にする。かこつける；①②③は「強調・旺盛」、④は「構築・達成」に該当。①の意味の訳語に“podč ě rkiivat’”が使用可能。

「もりたてる」(①そばから励まし助ける。②衰

えたものを再び盛んにする。再興する³²⁾；①②は「顕彰・拔擢」に該当。①の意味には“podderživat’”が、②の意味には“podnimat’”が使用可能。

「追いたてる」：①追ってほかへ行かせる。②借家などの立ち退きを迫る。③せきたてる。せかす；①②③は全て「強調・旺盛」に該当。①②どちらの場合でも“vygonjat’, vyprovaživat’”を使用することができる。

「駆りたてる」：①獲物を捕らえるために追いたてる。②その人の意志に関係なく無理に行かせる。③そうせずにはいられない気持ちにしむける；①②③は全て「強調・旺盛」に該当。

①には“podgonjat’”を、②には“vygonjat’”を、そして③には“podstrekat’”を使用することができる。

「並べたてる」：①多くのものを次々に並べる。また、立てて並べる。②いろいろ並べて言う；①②ともに「強調・旺盛」に該当。①には“vykladyvat’, vystavljat’”，②には“vyskazyvat’, vykladivat’”を使用することができる。

「塗りたてる」：①十分に塗る。きれいに塗って飾る。②やたらに厚化粧をする；①②はともに「強調・旺盛」に該当。①の意味に“vykrašivat’”が使用可能。

「なきたてる」：①[泣き-] 声をあげてしきりに泣く。②[鳴き-] 虫、鳥獣などが声高に鳴く；①②はともに「強調・旺盛」に該当。①には“rasplakat’sja, razrevet’sja”，②には“razlajat’sja”が使用可能。

「呼びたてる」：①声を張り上げて呼ぶ。②呼んでわざわざ来させる。呼び寄せる；①②はともに「強調・旺盛」に該当。①に“vykrikivat’”，②には“podzyvat’”が使用可能。

「洗いたてる」：①繰り返し十分に洗う。②内情や真相、特に他人の悪事や不品行をあばき出す。ほじくり出す；①②はともに「強調・旺盛」に該当。①に“vystiryvat’”，②には“vyptyvat’, razobláčat’”が使用可能。

「煽りたてる」：①風がものをひどく揺り動かす。②盛んにあおる。扇動する；①②はともに「強調・旺盛」に該当。①に“vyzyvat’”，②には“razduvat’”が使用可能。

「振りたてる」: ① 激しく振る。勢いよく盛んに動かす。② 声を張り上げる; 姫野は「直立 (確立)」の例としてこの複合動詞を挙げているが³³⁾, 辞書に書かれている意味から判断すれば①②は「強調・旺盛」としてみなすこともできる。姫野に従って①を「直立 (確立)」として判断すれば“podnimat’”で訳出することができるが、「強調・旺盛」と考えれば“razmachivat’”を訳語に使用することもできる。

以上が多義的複合動詞「～たてる」の例である。なお、単義的な複合動詞「～たてる」については例の一部を以下に記す: 「埋めたてる」(構築・達成) “podnimat’ (grunt)”, 「せがみたてる」(強調・旺盛) “vyprašivat’, vykljančivat’”, 「急きたてる」(強調・旺盛) “podgonjat’”, 「暴きたてる」(強調・旺盛) “razoblačat’, raskryvat’”, 「誉めたてる」(強調・旺盛) “raschvalivat’”, 「飾りたてる」(強調・旺盛) “razukrašivat’”, 「述べたてる」(強調・旺盛) “vyskazyvat’, rasskazyvat’”, 「吠えたてる」(強調・旺盛) “razlajat’sja, razrevet’sja, razvyt’sja, raskričat’sja, razvopet’sja”。

姫野が提案する「～たつ」「～たてる」複合動詞の各意味タイプと、それぞれの意味タイプの訳語に使用される動詞接頭辞の数を表に表すと [図表 3] のようになる。

[図表 3] の「～たつ」複合動詞の場合を見ると、「感情の発露・高揚」の意味の訳語に 23 例の接頭辞付加動詞が使用されており、次いで「生起・昂進」の意味に 14 例の接頭辞付加動詞が使用されていることが分かる。つまり、「感情の発露・高揚」と「生起・昂進」の意味の場合に接頭辞付加動詞が集中して使用されているのである。「～たてる」複合動詞の場合を見ると、「強調・旺盛」の意味で 51 例の接頭辞付加動詞が使用されており、次点の「顕彰・拔擢」における 10 例と

いう数と比較しても、「強調・旺盛」は接頭辞付加動詞の数の多さで抜きん出ている。

また、動詞接頭辞を基準にして見ると、「～たつ」では全ての意味タイプで使用される動詞接頭辞は存在しないものの、4 種類の意味タイプの訳語で VZ- が使用されており、他の 3 つの動詞接頭辞がカバーする意味タイプの範囲はいずれも 3 種類である。他方、「～たてる」の場合を見ると、POD- は 4 種類全ての意味タイプの訳語に使用されているが、VY- は「顕彰・拔擢」と「強調・旺盛」の 2 種類に、RAZ- は「強調・旺盛」のみに使用されている。このことから、「～たつ」「～たてる」複合動詞の訳語として用いられる動詞接頭辞の中で 10% 以上の使用率を記録した動詞接頭辞に限って言えば、汎用性に比較的優れている動詞接頭辞は VZ- と POD- であると言える。

む す び

本稿では、『複合動詞レキシコン』に収録されていた複合動詞のデータをもとに、「～たつ」「～たてる」複合動詞の訳語として使用される傾向にある動詞接頭辞を特定し、姫野 (1999) による意味分類に従って、使用率の高い動詞接頭辞が複合動詞の各意味タイプの中でどのように使用されているのかを明らかにすることによって、訳語として汎用性の高い動詞接頭辞を特定した。

本稿第 3 章では、10% 以上の割合で複合動詞の訳語に使用されていた動詞接頭辞のみを考察の対象としたが、それら以外の動詞接頭辞が使用されるケースについては紙幅の関係により稿を改めて述べたい。

また、本稿では「～たつ」「～たてる」複合動詞の訳語として使用可能な動詞接頭辞の特定にとどまっていることから、ロシア語の動詞接頭辞の

	「～たつ」					「～たてる」		
	RAZ-	VOZ-	VZ-	ZA-		POD-	RAZ-	VY-
直立 (出現)	1	1	-	-	直立 (確立)	3	-	-
出発	-	-	2	-	顕彰・拔擢	5	-	5
感情の発露・高揚	8	5	4	6	構築・達成	2	-	-
生起・昂進	1	1	5	7	強調・旺盛	9	22	20
その他	-	-	1	1				

意味や機能に関する先行研究を参考にして意味的な側面から複合動詞後項との意味的相関性についてさらに考察する必要がある。複合動詞の意味分類に関しても、姫野（1999）以外の研究者による分類も参照し、多面的に検討しなければならないと考える。

注

- 1) 影山太郎『文法と語形成』ひつじ書房, 1993年, p. 147.
- 2) アブラギモヴィチ・ユーリヤ「日本語の複合動詞における後項動詞とロシア語動詞接頭辞との意味的対応について——語彙的複合動詞を構成する「～でる」「～だす」の場合——」『人間・環境学』第25巻 pp. 95-104. 京都大学大学院人間・環境学研究科, 2016年, p. 97.
- 3) 同書, p. 102, 注釈1.
- 4) 同書, およびアブラギモヴィチ・ユーリヤ「日本語の複合動詞における後項動詞とロシア語の動詞接頭辞との意味的対応について——語彙的複合動詞を構成する「～こむ」の場合——」『比較文化研究』121号 pp. 99-110. 日本比較文化学会, 2016年.
- 5) 国立国語研究所『複合動詞レキシコン』<http://vvlxicon.ninjal.ac.jp> (2017年3月27日閲覧), 2015年.
- 6) 姫野昌子『複合動詞の構造と意味用法』ひつじ書房, 1999年, p. 208, 212.
- 7) 影山, 前掲書, p. 78.
- 8) これらの動詞接頭辞は動作様態(ロシア語 *sposoby dejstvija*, ドイツ語 *Aktionsart*)の意味的カテゴリーのひとつである「始動の動作様態」*načínatel'nyj sposob dejstvija* に分類される。Énciklopedičeskij slovar'-spravočnik lingvističeskich terminov i ponjatij. Russkij jazyk : v 2 t. / Pod obščej red. A. N. Tichonova, R. I. Chašimova, Vol. 2. Moskva, 2008. p. 31.
- 9) 動作様態の概念では、動詞接頭辞 OT-は「終止の動作様態」*finitivnyj sposob dejstvija* に分類される。Ibid., Vol. 2. p. 31.
- 10) 影山, 前掲書, p. 78.
- 11) 神崎享子「国立国語研究所オンラインデータベース「複合動詞レキシコン」『複合動詞研究の最先端——謎の解明に向けて』pp. 437-446. ひつじ書房, 2013年, p. 437.
- 12) 姫野, 前掲書, pp. 209-212.
- 13) 同書, p. 211.
- 14) 同書, pp. 208-216.
- 15) 同書, p. 213, 215.
- 16) 本稿におけるロシア語の翻字は国際標準規格 ISO/R 9: 1968 に準拠している。
- 17) 接頭辞を持たない派生前のロシア語動詞を指す用語として「基幹動詞」を用いる。なお「基幹動詞」の名称は金子(2003)に倣った。金子百合子「動詞接頭辞3 A-が表わす開始意味について」『Slavistika: 東京大学大学院人文社会系研究科スラヴ語スラヴ文学研究室年報』18号 pp. 214-232. 東京大学大学院人文社会系研究科スラヴ語スラヴ文学研究室, 2003年.
- 18) ロシア語詳解事典を見ると、動詞接頭辞接頭辞の数は Dal' (1955) 18種類, Ožegov (1953) 27種類, Ožegov (1960) 26種類, Ožegov (1982) 26種類, Ožegov, Švedova (2003) 25種類であった。これらの辞書の中で挙げられている全ての接頭辞から重複をしたものを除いて数え上げると、v-, vz-, voz-, vy-, de-, dis-, do-, za-, iz-, na-, nad-, nedo-, niz-, o-, ob-, obez-, ot-, pere-, pre-, pred-, po-, pod-, pri-, pro-, raz-, s-, u-の計27種類となる。Dal' V. I. Tolkovyj slovar' živogo velikoruskogo jazyka (I-IV tt.). Moskva, 1955. Ožegov S. I. Slovar' russkogo jazyka (3-e izdanie). Moskva, 1953. Ožegov S. I. Slovar' russkogo jazyka (4-e izdanie). Moskva, 1960. Ožegov S. I. Slovar' russkogo jazyka (14-e izdanie). Moskva, 1982. Ožegov S. I., Švedova N. Ju. olkovyj slovar' russkogo jazyka (4-e izdanie). Moskva, 2003.
- 19) 例として *pisat'* に基づいて形成される接頭辞付加動詞を羅列すると以下のものが挙げられる：
vpisat' 「書き込む」, *vypisat'* 「書き抜く」, *dopisat'* 「書き上げる」, *zapisat'* 「書き留める」, *ispisat'* 「書き尽くす」, *napisat'* 「書く」, *nadpisat'* 「表書する」, *nedopisat'* 「書き残す」, *opisat'* 「描写する」, *otpisat'* 「書き終わる」, *perepisat'* 「書き直す」, *popisat'* 「しばらく書き物をする」, *podpisat'* 「署名する」, *predpisat'* 「指示する」, *pripisat'* 「書き足す」, *propisat'* 「処方する」, *raspisat'* 「書き分ける」, *spisat'* 「書き写す」, *upisat'* 「書ききる」。
- 20) ロシア語ははじめとするスラヴ諸語の動詞には「体」のカテゴリーが存在し、完了体動詞と不完了体動詞という2つの動詞の形式が存在する。このため、語彙的に共通点を持つ同一の動詞は完了体と不完了体という体のペアを形成する。完了体動詞が表す動作はある種の臨界点によって制限されており、臨界点に達した動作は終了しないし中断する。一方、不完了体動詞の動作はそのような限界を持たず、実行プロセスにおける動作あるいは臨界点への到達を目指す動作が表される。Énciklopedičeskij slovar'-spravočnik lingvističeskich terminov i ponjatij. Russkij jazyk : v 2 t. / Pod obščej red. A. N. Tichonova, R. I. Chašimova, Vol. 1. Moskva, 2008. p. 581, 686.
- 21) Ibid., Vol. 1. p. 691. Achmanova O. S. Slovar' lingvističeskich terminov. Moskva, 1966. p. 352.
- 22) 例えば接頭辞が付された完了体動詞 *podpisat'* へさらに接尾辞 *-yva-* を加えて形成された *podpisyvat'* は不完了体となる。二次的な不完了体のこうした形成方法は非常に生産的であり、他の接頭辞付加動詞にも及ぶ(例, *vypisyvat'*, *dopisyvat'*, *zapisyvat'*, *ispisyvat'*, *nadpisyvat'*, *raspisyvat'* など)。

- 23) 松村明監修『大辞泉第二版』小学館, 2012年, 北原保雄編著『明鏡国語辞典第二版』大修館書店 2010年.
- 24) 国立国語研究所, Lago 言語研究所『NINJAL-LWP for BCCWJ』<http://nlb.ninjal.ac.jp/> (2017年3月27日閲覧), 2015年.
- 25) 今回の調査で接頭辞付加動詞を訳語に使用できなかった複合動詞は「きったつ」「つったつ」「匂いたつ」「舞たつ」「攻めたてる」「はしゃぎたてる」「まくしたてる」の計7語である.
- 26) ロシア語の動詞接頭辞には, 後続する音の種類によって異形態を持つものがある. 例えば動詞接頭辞 IZO- (izognut' 「折り曲げる」, izorvat' 「引き裂く」) となり, 無声子音の前では逆行同化によって IS- (iskupit' 「贖う」, ispravit' 「直す」) となる.
- 27) 以下の2つの意味は現在では廃れているため除外した: ⑥ 目的に合った状態に作り上げる. 飾り立てる. ⑦ 病気を治す.
- 28) 以下の3つの意味は現在では廃れているため除外した: ④ 見送る. ⑤ 世話をする. 後見する. ⑥ 軽く扱う. 見くびる.
- 29) 以下の意味は現在では廃れているため除外した: ⑥ 引き起こす.
- 30) 以下の3つの意味は現在では廃れているため除外した: ④ 取り扱う. 使う. ⑥ そろえる. 調える. ⑥ 築く. 建てる.
- 31) 以下の2つの意味は現在では廃れているため除外した: ④ むりやりに行わせる. ⑤ 押して閉じる. 閉める.
- 32) 以下の意味は現在では廃れているため除外した: ③ (守り立てる) まもり育てる. 保育する.
- 33) 姫野, 前掲書, p. 213.

The Semantic Correspondence between Second Verbs of Japanese Compound Verbs and Russian Verb Prefixes

— Case of “-TATSU/-TATERU” — second part of lexical compound verbs —

Yuliya ABRAHIMOVICH

Graduate School of Human and Environmental Studies,
Kyoto University, Kyoto 606-8501 Japan

Summary Japanese language learners may easily get confused when trying to understand and use Japanese compound verbs. As the Russian language does not have compound verbs, Russian native speakers may struggle with such verbs even more. The aim of this research is to create a comprehensive guide for native speakers of the Russian language on the usage of Japanese compound verbs.

This article focuses on second verbs “-TATSU/-TATERU” that form a number of Japanese compound verbs. With a reference to “Compound Verb Lexicon”, the database of The National Institute for Japanese Language and Linguistics (NINJAL), the author attempts to compare Japanese compound verbs formed with the help of “-TATSU/-TATERU” and Russian verbs with prefixes that are used for translation. As a result of this research, the author confirms the semantic correspondence between second verbs of Japanese compound verbs “-TATSU/-TATERU” and Russian verb prefixes and will introduce it in the following article.